

令和4年度(2022) 広重賞 第19回恵那市こども版画コンクール

■お礼のことば

第19回広重賞恵那市こども版画コンクールを、今年も恵那市教育委員会、公益財団法人中山道広重美術館、恵那市こども版画コンクール実行委員会の協力で実施することができました。コロナ渦中の恵那市内のこども園・保育園・小中学校・特別支援学校の皆さんが厳しい条件を乗り越え、先生方のご指導をいただく中から生まれた作品を、中山道広重美術館で展示できますことに、心から感謝申し上げます。

ご支援いただきました公益財団法人恵那市文化振興会、恵那商工会議所、恵那市恵南商工会、恵那市商店街連合会、一般社団法人恵那市観光協会、恵那市小中学校校長会、明知鉄道株式会社、公益財団法人日本大正村、恵那ライオンズクラブ、恵那ロータリークラブ、一般社団法人恵那青年会議所、その他関係各位のご支援に、重ねてお礼申し上げます。

なお、今年度は恵那ロータリークラブ様から創立60周年記念事業の一環として、第19回こども版画コンクールの運営に助成金を賜りました。それに伴い、今年度は特別賞の一つとして「SDGs賞」を新設。子どもたちの作品を新たな視点で表彰すると共に、いただいた助成金は参加記念品の制作に充てさせていただきました。恵那ロータリークラブ様には、この場をお借りし改めてお礼申し上げます。

■版画コンクールについて

当コンクールでは、審査のポイントとして、以下の点を挙げています。

1) 子どもの発達段階を踏まえた作品か。作者の素直な心が込められた作品か。

2) 課題（『わたしの生活とふるさと』）に沿った作品か。

「わたしが大好きなもの・ことを表現する」「わたしが学校や日々の生活の中で見つけたこと」
「ふるさとの風景」「身近にあるふるさとの文化」

3) 版画ならではの良さ（造形性）を感じさせる作品か。

4) 今後の“可能性”を感じる作品か。

5) 以下の三つが認められるか。

- ・題材をにつめる努力（ねうちを探す）
- ・どんな形にするか（説得力のある構図）
- ・技の工夫をする（道具をうまく使う）

6) 規格（最大サイズ：四つ切～最小サイズ：はがき大）を守っているか。

なお、課題はあくまで版画制作にあたる上での大きなテーマであり、課題ありきではなく、作品を作った子どもの発想を尊重しています。また、たとえ技術的には多少稚拙であっても、子どもの素直な心が読み取れる作品を見定め、選出することを心掛けています。さまざまな解釈ができる作品については、審査員全員で話し合い、評価をしています。

■審査会を終えて

第19回恵那市こども版画コンクールの審査会を、1月30日（月）、武並コミュニティセンターで実施しました。こども園・保育園・小中学校・特別支援学校から2,443点の応募があり、広重賞含む特別賞19点、奨励賞28点、入選125点の計172点が入賞・入選となりました。

厳しい審査の中から選ばれた作品には感動があります。今年の上位入賞作品の完成度の高さは、これまでの取り組みの積み重ねによる結果であると思います。こども版画コンクールの使命を、今後も恵那のくらしの文化として発信し続けたいと考えています。皆さまのご指導、ご支援をこれからもよろしくお願い申し上げます。

（文責：恵那市こども版画コンクール実行委員会委員長 永谷繁明）



第19回

広重賞作品展

広重賞 恵那市こども版画コンクール

主催：恵那市教育委員会（公財）中山道広重美術館
 後援：恵那市工芸会、恵那市商工会、恵那市商店街連合会（社）恵那市観光協会（公財）恵那市文化振興会、恵那市小中学校校長会、
 明延鉄道（株）（公財）日本大正村、恵那フイオンスクラブ、恵那ロータリークラブ（社）恵那青年会、恵那市文化振興会、恵那市小中学校校長会、

第19回広重賞受賞作品「秋の気になる場所」若色中学校1年 佐々木 蓮さん作

会期 令和5年(2023) 2月25日(土)~3月12日(日)

※2月27日(月)~3月1日(水)は展示替えのため休館いたします。

同時開催 全開演 会期 令和5年(2023) 開催中~2月26日(日) 花は桜木—江戸っ子お花見事情— 展示室1(1F)

※2月27日(月)~3月1日(水)は展示替えのため休館いたします。

同時開催 全開演 会期 令和5年(2023) 3月2日(木)~4月2日(日) 江戸粋戯場伊呂波 展示室1(1F)

●上の企画展には観覧料が必要です：大人 520円(20名以上の団体は420円) ▲18歳以下、障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。

中山道広重美術館 〒509-7201 岐阜県恵那市大井町176-1 TEL(0573)20-0522 FAX(0573)25-0322
 HP <https://hiroshige-ena.jp>

広重賞 第19回恵那市こども版画コンクール
 入賞・入選数：特別賞 19点、奨励賞 28点、入選 125点（総出品数 2,443点）

作品展：2023年2月25日(土)~3月12日(日)
 中山道広重美術館 展示室2(2F)

表彰式：2023年3月5日(日) 午後1時00分~、1時45分~(2部制)
 中山道広重美術館 講座室(3F)

広重賞

「秋の気になる場所」

岩邑中学校1年 佐々木 蓮 さん



くらしの今を、大胆な構図で見事に表現した作品だ。紙面に大きく描かれていたグレーチング（鉄格子板）の力強い描写。それを支えるコンクリートやアスファルトの歩道を同系色で使い分け、黒い台紙を使うことでできるズレの変化や深い色調と潤いを出すことで、紙面を一層豊かにした。イチョウの描写にも配慮した豊かな作者の感性に、今後も期待する。今回の作品を通して、表現する喜びや工夫する大切さを、今後に生かしてほしい。

恵那市長賞

かんから屋

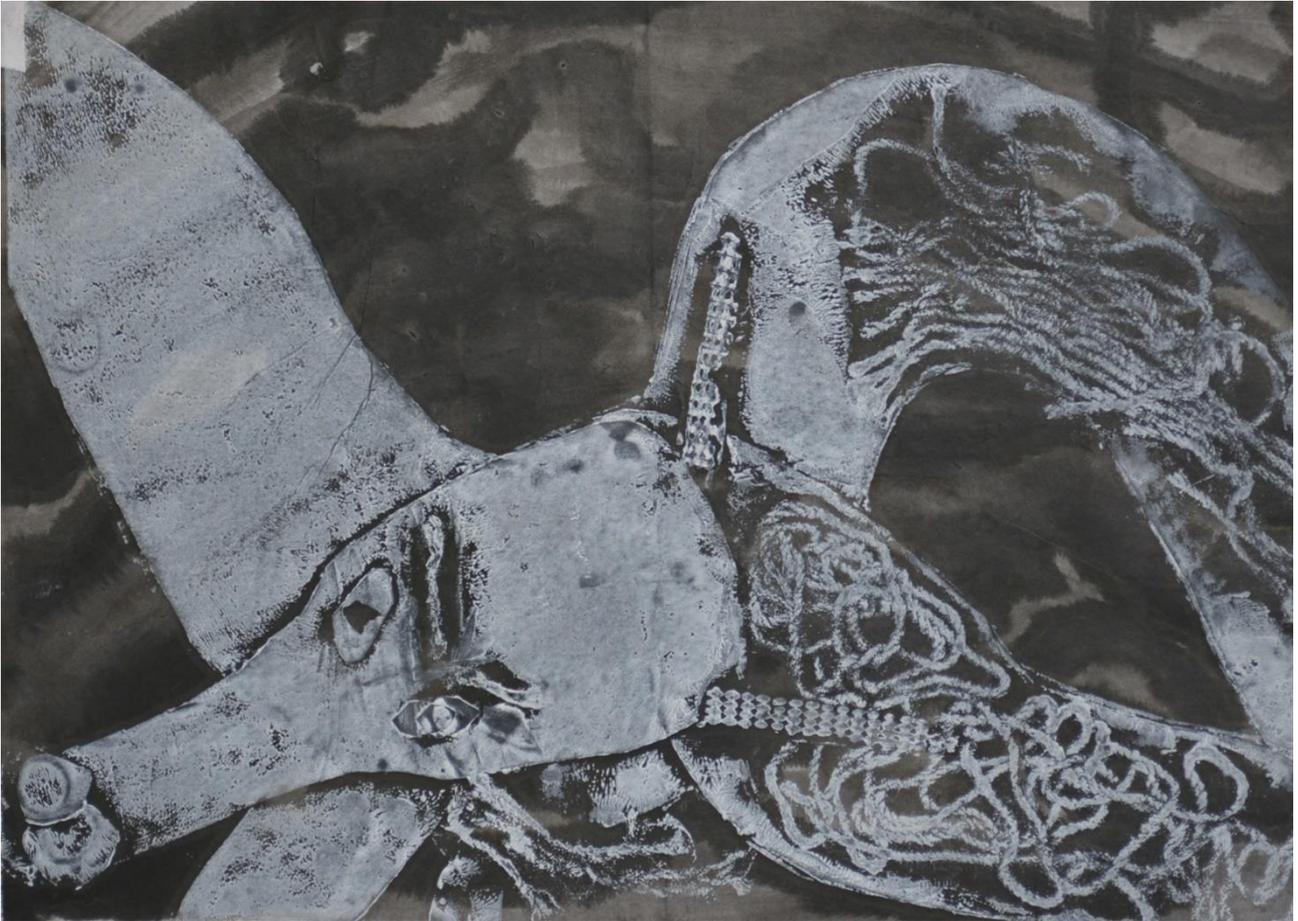
岩邑中学校2年 吉村 美鈴 さん



ふるさとの店を描いた作品である。私も岩村へ遊びに行った時、寄っておもちをいただいた。岩村へ行った人なら、作品を見て誰もがこの店を知っていると思う。のれんの文字と提灯で店の雰囲気がよく伝わってくる。摺りも良く壁の黒が美しい。それにより白も生きている。「わたしの生活とふるさと」の課題を十分に捉えた作品である。これからも、ふるさとの素晴らしさを発見し描いてほしい。

恵那市議会議長賞

たたかい続ける白龍～上矢作龍伝説～
上矢作小学校3年 伊藤 優真 さん



画面を覆う鉛色のとどろきが、見る者に畏敬の念を抱かせます。龍の姿で現れた神の荘厳さを当地伝説で学んだ優真君は想像を膨らませ、描写について考えたのでしょう。偉大な龍の身体のうねりと動きの中の神々しさを、版画という白黒二色の世界の中で灰色を選び、しかも下方に重心のある構図へ導き、重みをきわ立たせました。表現技法も毛糸の伸縮で表皮の不思議さを出し、龍の開眼の恐ろしさを内面から補完させました。3年生と思えない計算された作品の仕上がりに圧倒されます。

恵那市教育長賞

ふくらめ！ふくらめ！

岩邑小学校2年 加藤 祐斗 さん

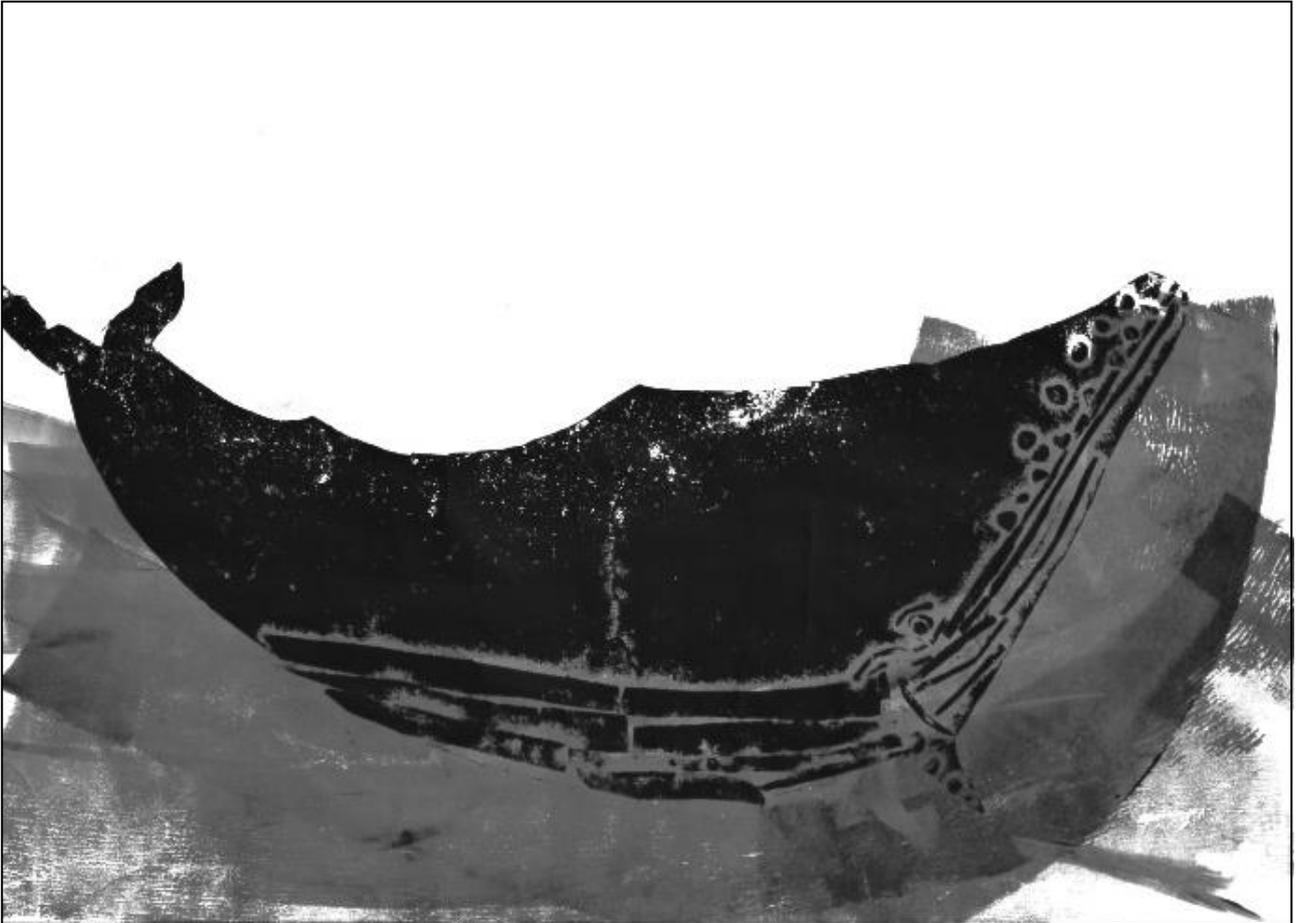


ほっぺをまん丸にふくらませ、しんけんなひょうじょうです。視線は手元の風船にしゅう中し、まさに「ふくらめ！ ふくらめ！」という気持ちがつたわってきます。すぼめた口のしわ、ゆびのかんせつ、つめ、風船のつやなど、細かなびょうしゃにもおどろかされます。すみ一色ながらも、まっ赤な顔をそうぞうさせるような、生き生きとしたひょうげん力にすぐれた作品まぐひんです。

SDGs 賞

大きなクジラ

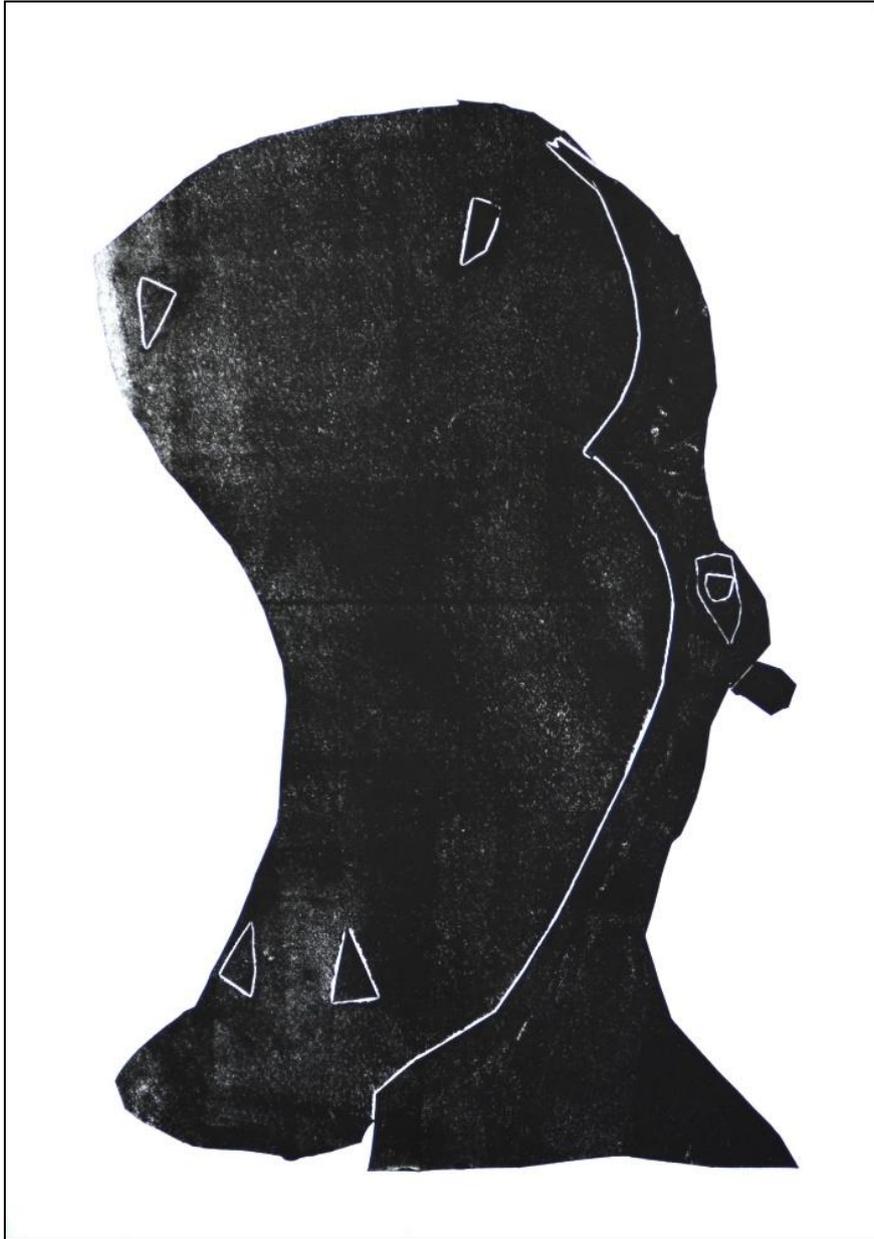
山岡小学校 3年 鈴木 進二郎 さん



画面のまんなかえがに大きく描かれたクジラと、ザブンはねる波がシンプルかつ大たんに表された、すてきな作品です。クジラの体の曲線にそうように青い波を描いているところが、とてもよいですね。地球上でいちばん大きな生き物であるクジラと、地球の70%をしめる海。進二郎さんの作品を見ていると、同じ地球に住む者どうし、なかよくしたい、どうしたらかれらの住む場所を守れるだろうと、考えずにはられません。

中山道広重美術館館長賞

きばがおおきくてかっこいいカバ
大井こども園 伊藤 龍哉 さん



たてにした かみいっばいに おおきく ひろげられた くちが いんしょうてきな さくひんです。まっくろな くちの なかに きばいがいの よぶんなものは おかず、あるのは よんほんの きばだけで、おおきな くちと りっぱな きばに びっくりした きもちが すなおに つたわってきます。くちと かおの バランスも ぜつみようです。さくしゃが おおきくて かっこいいと おもった きばが かわいく みえるのは ごあいきょう。だいたんに きりとられた くちと かおのりんかくが すこし ギザギザしているところにも こどもらしさを かんじます。

恵那市文化振興会会長賞

とかげとぼく

長島小学校4年 各務 叶那翔 さん



恐竜の子どもを思わせるトカゲを握りじっと見つめるこの版画は、空調の効いた明るい子ども部屋で、パソコンやゲーム機に囲まれた現代の社会に生きている彼が、太古の自然の中に引き込まれていることを想像させてくれます。「トカゲとどんな会話をしているのかな」と私もワクワクしてしまいます。社会がいくら進歩しても人間は自然の中に生きているのだと、日常性に流されて制作している私は、この作品に教えられました。

恵那商工会議所会頭賞

底光り

上矢作小学校6年 太田 花 さん



川底の雰囲気^{ふんいき}を上手く表現している。細い線、太い線で動きを出し、カニの赤、水の青、川底のグレー、魚の緑、光の黄、あぶくの白色、また、それぞれの色を微妙^{びみょう}に変化させることで、下地の黒の上で絶妙な色合いとなり、川の中の感じを出している。さらに、水面の線を少し斜^{なな}めにし、川底の石も大きさを変えることで、奥行き^{おく}のある構図になっている。宮沢賢治の童話が基になっていると聞いたが、きっと自身も川遊びで川底から水面を見た経験^すがあって、この作品が生まれたのだと思う。摺りもきれいで良い作品だ。

恵那市恵南商工会会長賞

大きいへちマがとれた！
岩邑小学校4年 後藤 夢芽 さん



抱きかかえなければ持てないほど、大きく育ってくれたことへの喜びが伝わってくる作品です。それは、へちマを見つめる少女の瞳と、微笑みからもうかがうことができます。顔の下あたりから斜め下へと伸びるへちマを、大切そうに持つ二つの手は、バランスよく配置されています。また、顔の横に描かれてあるへちマの葉からは、収穫されたばかりのみずみずしさが分かります。生活の一場面が生き生きと描かれていると思います。

恵那市商店街連合会会長賞

西階段

岩邑小学校5年 服部 ひなた さん



課題として毎日通う学校の^{かいだん}階段をとらえ、日々の生活の中で見つけた何気ない一場面を的確に表現しています。画面を余すことなく^{だいたん}大胆に使い、遠近感も上手く表現できています。大きな階段の^{はくりよく}迫力が伝わる構図がとても良く、階段部分もしっかり彫れており白黒のバランスも大変良いと思います。小学校の多くの児童がこの階段を上り下りして学校生活を楽んでいる姿が想像できる作品です。

恵那市商店街連合会会長賞

だいこんとったぞ！

中野方小学校2年 酒井 悠成さん



この作品でもっとも惹きつけられるのは、いきおいのある顔の表情です。つり上がった眉と力強い視線、ゆがんだ口によって、だいこんが想像以上に大きなものであったという満足感と自慢げな様子がつたわってきます。大きいだいこんをにぎりしめる指からも、大きくて重いだいこんであったことがわかります。葉のギザギザや葉脈の様子などの特徴も、子どもらしく正確に表現され、だいこんであることが一目瞭然です。さらに、作品の白と黒とのバランスも美しいです。

恵那市観光協会会長賞

けんばん大すき

恵那北小学校1年 吉田 芽生 さん



まず、元気いっぱいなゆびのうごきに、目をうばわれました。また、目、はな、口、わらったときにできるほっぺたのせんなど、じぶんのかおをじっくりとかんさつし、絵にしてくれたことがよくわかります。ようふくのもようも、とてもこまかくえがけていますね。「けんばん大すき」なようすが、めいさんの体ぜんたいからつたわってくる、とてもたのしい、すばらしいさくひんです。

恵那市観光協会会長賞

アマビエ

明智小学校2年 熊谷 昊大 さん



昊大くんのアマビエはかみの毛が風にふかれているのがいいですね。体のうろこもしっかりしていますね。海のなみのキラキラ。アマビエのキラキラ。とてもきれいです。みんなをまもってくれますね。

恵那市小中学校校長会会長賞

バレーボール

大井小学校5年 佐々木 梨華 さん



絶対にサーブを決めるぞ！という緊張感や気迫が伝わってくる。そう感じさせるのは、構図のよさにある。画面の半分を占める大きなバレーボールに対して、小さく描かれた女の子。このように極端にサイズを変えた構図がこの作品の魅力である。また、形や動きを意識した丁寧な彫り。白と黒のバランスの良さも印象的である。学ぶべき点の多い、模範的な版画作品であると考えられる。

明知鉄道社長賞

おたまじゃくしの 101 ちゃん「みんな、おさんぽにいくよ」
東野こども園 河野 悠真 さん



おたまじゃくしの 101 ちゃんがたのしい おさんぽに でかけているところを じょうずに あらわしました。 おかあさんがえると たくさんの おたまじゃくし、 いちべいぬまの なかの ようすなどを はさみで ひとつひとつ ていねいに きって のりで きちんとはったから とても すてきな はんになりました。 やさしく たくましい おかあさんがえると なかよしの おたまじゃくしの きょうだいの がんばりがよく つたわってくる すばらしいはんがです。

日本大正村理事長賞

スイミーのせかいでクラゲとお話
長島小学校2年 近藤 ちな さん



なかまを大切に思うスイミーが大好きだということが伝わってくる作品です。泳ぐクラゲを、丸く切りぬいた紙をたくさん使い、こまかくはることで、生き生きと、うれしそうに表すことができます。また、魚やタツノオトシゴ、サンゴを、水色やむらさき色絵具を用いて、スタンプしたことで、きれいな海を感じさせます。全体を通して、おだやかで美しい海を感じることができます。

恵那ライオンズクラブ会長賞

白鳥と

大井第二小学校5年 成瀬 莉子 さん

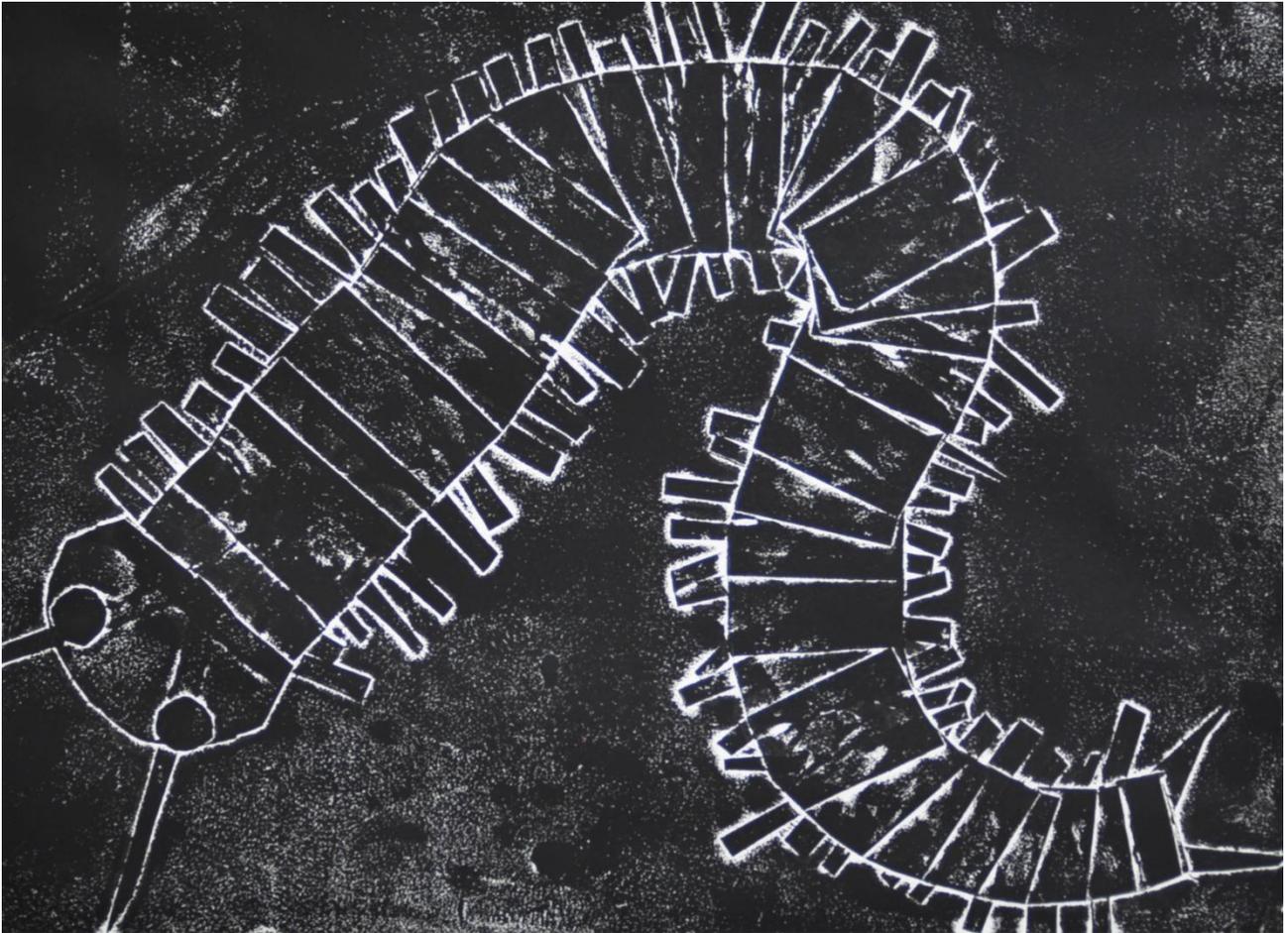


画面を湖面と山に二分し、考えられた構図である。湖面に映る白鳥たちと山、雲の対比がすばらしい。小学校5年生でこの発想には感心する。三色摺りされているが、青、黄、赤がバランスよく使われている。また、陽の光が湖面に反射した美しさがよく表現されている。全体的に美しさが目を引いた。

恵那ロータリークラブ会長賞

ムカデさんごはんどこな？

山岡こども園 堀 柚衣 さん



がめん いっぱいの むかでさん。なんと やく130まいもの はりあわせから できています。あたまの「しょっかく」から「お」まで いちまいいちまいを ていねいにきって つなぎあわせたことで ほんものらしく いきおいのある むかでが できあがりしましたね。こんきのいる しごとをあきらめずに きちんと さいごまで つづけたからこそ できたさくひんです。百足の イメージを ゆいさんの こんきと センスで あらわしてくれて ありがとう！！

恵那青年会議所理事長賞

がんばったよっちょれ

中野方小学校3年 鈴村 侑奈 さん



体に合わせてなびくかみの毛。少しかしげられた首。よっちょれのはげしい動きとは対照的にも思えるしずかな表情からは、しんけんさがつたわってきます。えり元のチャックやはっぴのしわなども、細かく作りこまれています。決して動きの多い画面ではありませんが、よっちょれやはんが作りなど、一つ一つの学校行事にまっすぐ向き合い、ていねいに取り組む侑奈さんのしせいが感じられる作品です。

※選評について

作品に添えられた選評は受賞者の年齢に応じて、ひらがな表記またはルビ表記をしています。